



明遠
1440
卷

振鷺亭先生著

明神東山紙墨
此書寶價

寒温

奇談

一草

午酒初醒 啜茗餘
香消金鴨 夜窻虛
剪燈濡筆 清無寐
録傳人間 未見書



取得の書房夜話乃草紙を書ふ事年一りの
余志を高上りて至る事何れに似たりとて
況乃彼を厭ふ身素より市子産業の跡力明後
度他行一付の勝有て無因の事會ふや後せり
素公是より有る偶甲戌乃年遠遊の舉けり然
其行路中山皴の雨打乃河聖亭の云を無以
船よ幾の敷目を消し馬上よ兼て意馬中の酔
法像筆硯を舎の邦村孤雲あり仙聖人新語
有名山公の妖と新大澤は月月の斐成敷す
翁媪乃我鬼話よ感あまバ牧童の一言友に
後く

四
吉
吉

曾て友交古廟とて日記の情書とて
 け形容情書の説を化生一の業来く観るは泡の
 如く幻の如く顧つて前賢の書と編み手旨多
 廿年以有る多大道に合するも南花の妙虚中よ
 實有く及乃よ合するは學の意あり母人乃
 小説よ於る盛よ鬼神を稱し変化出るる
 怪相競く矢を歎ぞ行風を新系と捕ら世に
 評と劇本やうあゆまき緒先生と費す犹も美
 辞色声却る如掌れ身目よ落変化の一方とあるぞ
 呼母よとび其河翰の場よ戯るよ老公孝悌の

義よ迫りて志士乃風熱を慕し英勇淑と振
 やる程毅の操執よ懦弱の意成懐て又ま乃
 象象とたつてむ乱れ穢子のもの侍とて辱め
 らぬ男女浮糜の態をわせるハおと信ま真の
 らるるを示し淫蕩子の自反となす見る者怒て
 帝苑ぞ舞んる巻を捲く涙を流しむふりのハ
 一旦台を殿一悪を彰し台復悪を懲る保善の
 帝よ歎あるものを實やかうやうの善紙を見く懲さ
 志を起るるあふるが老ぼの悔もやうあハ儻大方
 我をねせりと言ふ詠舞妓の作意よ並く飛出

斯文乃章とせん一二乃編を次ぎの寒温奇談
聊事終然否を後ト一杯乃泡茶よ豁然の氣を
助る乃謂ありとよ其加を花告よとて山雨の
困よ旅箱と困く又快友を以て錦を續終り
書房に投じ彼怨意よ破る事ハ侍里ぬ終ぞ
直よ其のりを序とす

寛政乙卯乃孟春 振鷺亭の主人
書林南總館よ毫ハ減く



芳忠

寒温奇談一二草 惣目録

振鷺亭 主人 著



第一篇

熊谷由純南山乃花精と曆代を痛むる話

第二篇

當麻通人盗人妹子媛よ魅とるる話

第三篇

萩原十郎が妻僧の生執成仏辨と來活

第四篇

遊女が妖術千人の贊を覆一人の擲の活

第五篇

鳩夫婦多し化し責任を究る活

第六篇

畜生谷村主が婚成庄司が然其破子活

第七篇

相剗の孝子白目と冤鬼と生拘活

此編雖於世教民彛莫之或補而觀善懲惡

哀窮悼屈其亦庶平言者無眾聞者足

以戒之一義仍附諸梓去爾

以上七篇

寒温奇談 二草 第一卷

① 熊谷直純 熊谷直純 熊谷直純 熊谷直純

獨南山の奥より雪を吹入りて。誠は山深く白雲峯に重なり。
 烟雨谷を埋く。土砂の家屋は少く。西よ木を伐りて薪
 以て暮を浚く。乃鐘の声は海の底よあふ。後醍醐天皇
 延元二年八月十八日。魁は崩り竹ひ。蔵玉堂乃良多
 林乃奥より水向は森なりと書し。其山陵の地は意輪の
 後なるふありと。安よ昔の床に瓦を置き。其生の末に。花
 をひより。そとを秤する。水は生を流す。花は水に流る。
 御廟土墩さいやう上よ。梅をたつとりて堆をあり。酒掃は
 なるり。是れ。荆棘乃至雲石を。石を。石を。石を。石を。

傾て薄生い茂る松栢蒼蒼として物凄し。初當一天の君とて
 海遊の目おさるに市有候など。遠く昔を思ふ。感慨の海
 岸にありし市國忌薦書の手た書簡の古法師の尋らばは法河
 云一山乃元佐こまを急ぐ。市祥あを傍ひき。星霜九百七十
 余年に抄まびて。今ももの夜あふ市廟心動するありと候。

あま又傍の本根に踏く。蟻こわらば御風流の傍ありて云む
 う。桓侯親畫又功徳乃を廟にたはる。久しき廟を毀し。東家
 功徳ある君の廟に毀ぬともいふ。い君有由の素厚は海をせらる。

神事と抄せし後魂とをめひき。あまきりる。と有めん。輿ははる。あ
 くに論ははる。えん建武の治乱の端を我友人乃の家後。の記録を
 抄る。記はる。抄はる。とく。歳一。まに倍せらる。事怪しく。とく

一あれども理のある。不捨る。まは。今千年のむう。誠に妖魔の流
 身影なき。一書は。なる。人。是利の法相。重なり。と。大樹。政政。書遊
 記を。と。と。友の。重なり。内外の。上。言。は。風俗。これ。より。表。す。世の
 中。奇。く。なり。久。然。谷。並。絶。て。先。海。永。永。享。三。代。の。盛。あり。世。を。も
 見。下。る。者。あり。時。政。の。改。変。上。啓。政。要。簡。篇。と。い。ふ。二。書。を。總。て。享
 徳。二。年。秋。九。月。蜜。表。上。し。め。り。り。り。り。得。字。凡。を。官。は。あ。る。て。

漂。る。足。踏。後。の。不。れ。あり。と。死刑。は。重。せ。ら。る。と。云。て。並。絶。す。く
 と。通。を。煙。雲。と。晦。し。御。芳。聖。の。心。深。く。道。を。と。く。山。を。と。友。と。

新。を。抄。り。り。彼。小。風。の。詩。を。歌。う。と。い。て。箕。濮。乃。情。を。樂。こ。る。

時。節。を。抄。り。り。御。芳。聖。の。心。深。く。道。を。と。く。山。を。と。友。と。

船。中。より。海。の上。を。望。み。り。り。頼。嶺。の。頼。嶺。と。い。ふ。人。の。死。り。り

状の如く、つらむのす、嵐に雲く、煙乃くく、奇怪しく、於て、舟を居み、
樽を居み、乃根を伴ひて、そよの臨登り、つれば、晒さるる人の、骸骨、
あ、平空に、よと、棟より上、に、掛し、て、伏せ、さう、と、又、棺槨の、昔に、
朽ら、る、の、と、そ、ま、た、それ、を、刻、あり

我身世に、な、つ、ら、ん、あ、と、の、あ、さ、れ、と、准、ふ、る、は、あ、ま、り、
延之二年八月十八日、何、来、期、た、死、と、な、れ、あ、り、至、純、持、を、居、て、
年、数、を、算、し、九、百、年、前、死、日、南、帝、前、御、の、日、な、り、あ、り、あ、ま、り、
後、人、あ、ぬ、老、か、の、死、骸、あ、る、と、お、も、う、く、礼、儀、を、奉、り、て、平、介、
亡、國、乃、朝、を、斧、飛、乃、つ、ま、あ、ん、何、が、あ、り、魂、を、さ、ら、め、と、土、に、化、
し、ら、る、人、死、さ、る、眼、の、守、あ、り、派、然、と、て、跡、な、る、足、を、あ、り、あ、ん、を、
差、を、と、く、ら、の、の、其、と、や、昔、因、学、を、使、ん、と、け、骸、骨、を、枕、と、て

眠る、忽見る、容兒、燈、殿、あ、り、て、夜、冠、怒、あ、り、つ、る、冠、人、至、純、が、お、り、
出、て、云、子、の、糸、土、あり、今、死、の、説、を、受、ま、り、欲、す、や、夫、死、ま、れ、ば、上、り、
君、あ、り、乃、は、は、は、亦、四、時、乃、り、な、く、と、只、天、地、を、と、り、春、秋、と、
す、世、に、我、君、主、あり、今、日、秀、女、の、大、女、あ、り、を、徴、く、宍、魂、柳、葉、の、
葉、を、海、ん、の、を、希、く、活、く、先生、の、か、る、を、号、せ、と、至、純、が、ま、り、延、
く、海、川、に、葉、を、靴、と、踏、き、あ、り、く、懐、く、九、月、初、二、の、夜、の、日、稍、
か、り、肩、に、取、れ、山、を、さ、り、つ、る、深、く、霧、た、る、老、朽、あ、り、と、
足、履、く、る、亦、に、到、り、け、し、し、信、浸、く、と、至、純、骨、冷、身、毛、堅、ま、の、る、を、
懐、く、月、乃、光、に、視、て、あ、ま、り、殿、龍、領、を、傳、く、大、監、石、を、水、堂、
御、座、に、一、万、葉、の、天子、と、定、く、膽、帝、乃、括、ひ、を、惟、く、と、至、純、の、
御、夜、ま、り、を、玉、ひ、た、の、ゆ、め、に、五、卷、の、佛、經、を、披、く、右、の、帝、乃、あ、り、

宝剣を抜く。いさぎよし。逆轉の。は。瞬。逆。さ。ぬ。に。割。は。盤。左。右。は。ま。く。只。魔。醜。修。羅。王。乃。ど。く。あ。り。た。の。傍。に。赤。糸。の。胃。に。赤。地。の。重。宝。を。く。ら。笑。ふ。事。一。つ。を。換。出。お。と。せ。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。眼。の。光。射。て。た。右。を。睨。く。左。軍。は。右。の。傍。に。赤。糸。の。胃。の。紺。地。の。重。宝。を。く。其。換。割。お。と。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。双。の。眼。を。開。く。眼。を。ぞ。半。り。る。事。の。辨。魏。く。一。つ。を。換。出。お。と。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。赤。糸。の。胃。の。紺。地。の。重。宝。を。く。其。換。割。お。と。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。深。山。の。奥。夜。志。が。す。つ。つ。は。下。に。集。ま。り。て。上。屋。お。と。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。十。六。代。の。帝。後。醍。醐。天。皇。と。し。て。一。つ。を。換。出。お。と。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。中。の。我。々。下。右。の。室。を。捕。大。判。友。橋。成。之。主。上。大。魔。王。を。成。く。今。こ。ら。に。

集り。皇。利。の。治。世。を。乱。し。き。深。定。ま。と。あ。と。を。治。る。也。純。つ。よ。く。赤。糸。の。胃。を。か。り。天。威。よ。押。ま。敷。麻。本。て。踏。む。時。帝。謙。よ。苦。く。糸。が。る。は。息。を。一。つ。を。か。り。度。毎。い。は。い。の。り。火。を。さ。ら。と。燃。せ。く。皇。烟。天。よ。立。上。る。は。声。せ。し。る。人。や。あ。つ。く。は。ま。り。れ。東。西。の。山。乃。峯。より。太。帝。坊。次。坊。足。の。し。き。糸。が。る。多。り。取。り。て。画。り。天。狗。の。つ。の。の。り。一。つ。を。換。出。お。と。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。有。て。宣。ふ。今。日。政。り。の。法。を。曲。わ。方。の。多。位。南。方。の。大。位。は。傍。に。殊。池。魚。に。及。べ。さ。んと。火。帝。洛。平。一。糸。乃。純。法。を。告。し。る。只。今。怒。糸。の。火。燵。人。多。く。こ。ろ。く。狗。毛。ま。と。あ。ま。バ。二。人。睨。り。く。帝。乃。は。乃。乃。火。を。さ。ら。火。把。に。息。し。て。雲。存。さ。ら。ふ。糸。が。る。ぬ。忽。ち。一。陣。の。魔。風。を。さ。ら。り。振。作。り。沙。流。石。を。飛。ぶ。須。更。あ。ら。び。て。乾。の。方。に。燵。火。燵。し。る。一。つ。を。換。出。お。と。し。ま。さ。ぬ。あ。り。ま。せ。し。る。や。時。煙。天。を。捕。ふ。是。を。見。て。帝。乃。は。乃。乃。打。候。せ。ま。い。は。緒。を。搦。み。打。て。

倉を平く。負民を振。自に録出く。松を決防。以天下
 人。之友軍。以彼。養食。重穀。と王の師。上運。不。これ。其。お。人。是
 して。行。進。迷。に。城。居。る。射。を。討。く。一。日。天下。を。區。ある。お。謙。よ。ね。世。安。民
 の。帝。速。令。世。垂。聖。の。也。と。稱。す。つ。一。日。時。は。あ。り。る。敷。を。漸。驕。暴。と
 車。朝。政。を。悔。む。惜。べ。し。く。け。時。公。使。一。統。の。政。を。終。る。と。い。ふ。貴。爵
 正。か。ら。し。う。一。日。天下。の。人。情。却。る。武。安。を。暴。き。や。皆。一。日。と。遊。を
 律。せ。ん。敷。也。の。と。あ。り。る。卒。は。よ。る。氏。を。友。軍。に。任。じ。國。中。の
 控。を。執。り。め。た。り。勅。負。を。及。て。又。義。貞。を。將。軍。に。任。じ。都。小。他。を
 討。ん。の。を。欲。し。る。は。是。を。帝。を。翻。を。換。り。論。を。傳。り。一。日
 勅。令。行。ま。じ。甫。山。に。臨。幸。あり。て。再。與。復。を。請。り。ま。た。え。は。の。は。し
 際。に。相。遠。し。て。遂。に。成。ら。ば。建。武。の。一。札。と。し。出。せ。り。元。弘。の。札。の。氏。の。海

す。亦。治。史。建。武。乃。治。の。民。の。叛。く。地。乱。く。人。民。は。是。邦。乃。本。邦。の。根
 云。の。民。あり。是。古。今。の。通。宜。あり。帝。答。て。云。去。と。よ。そ。れ。の。御。が。僻。り
 かり。後。帝。一。と。後。帝。の。院。の。聖。緒。を。彰。く。武。臣。の。威。を。抑。へ。む。を
 延。我。天。曆。の。法。を。始。ん。ぐ。民。を。抑。へ。奉。乃。始。白。を。創。業。を。學。び。一。望。の
 帝。乃。之。辨。し。や。お。願。乃。美。百。友。の。富。を。以。ち。せ。度。及。民。其。の。大。事。を
 聖。人。為。の。凶。徒。を。靜。り。ん。と。て。公。を。若。し。め。り。い。と。よ。る。治。を。成。ん。の。の
 う。ら。乃。車。一。と。ん。や。並。統。を。著。へ。天。能。德。讓。と。ひ。く。國。を。亦。帝。に。お。い。は
 せ。居。る。乃。乃。難。り。あ。ん。後。極。の。國。二。乃。王。と。車。一。朔。後。二。流。あ。り。る
 ま。い。い。の。足。事。の。札。と。失。く。君。聖。明。あり。星。を。愧。け。時。大。難。を。靜。て。寧。み
 養。生。を。海。の。敷。心。に。あ。り。奉。奉。昇。乃。讓。仁。道。榮。道。後。に。別。り。天。津
 備。乃。使。之。亦。帝。に。託。せ。る。氏。威。を。傳。後。の。下。に。假。く。世。を。反。還。乃

中いづりんと覇を企てんとあらず胡越とありて天淵を以て分ん
君先帝の聖徳と徳累代武臣の権威はく帝乃の瘼人なりと
致さるる食て手威を押し置き政務を敷く皇の徳をまんなるあるは法の
亂治とて海もや移りけり時文は猶り徳を極するを止むかみん
治國仁政の力を以てしる也我神別神代より皇の乃あり。千聖蹟を
尊ん、臣節を和らふの制教度よ報むり君の文明ある令せばと
静んよ思ひく民の乃ありては身のためあり事と敷敷極側を
帝並純が柳揚塵殿の古にのみ知余流ごく流はれ屋禮安
は声にあはらげ後より相先帝承之の記るるは山来た我財がる僅後
の國一流さるるの操又足利を成りくるはしりく。後彼別は徳も
然る我天子とてなんぞ成はよ居するの理ありん皇上の文明を

乃率ハ巫史のほあり。我國ハ孔子とて迂遠。時運の原は爲
下乃及西腐儒の知るべきにあはらるる。あはらるるは河を。巫純帝の
下平なる有操を見く。我々に對ひ窮而後良節それたを才徳を
能せば、たのめ海会の催星はく。全割山の夜あり。忽ち乃の乃あり
をんく反後。本玉上盤にゆりまきを巻。極をす。東公玉
の兵糧を乃も勢とつか。源大樹あり。其の様をさす。六系後海
せむる由船の上奏の。勢ひ急流を春の迅速ありに非ざるか
言成度成をゆりも威をさすに非ざる。一旦利を失ひ忽ち極を
始終兵糧をさすもの。其志君を聖難の中は海ありあはらるる
さる氏と勢利をさすにあはらるる。我々に對ひ窮而後良節それたを
ありとて。我天子の其大を譽るといそよ一人の乃の乃ありん



奥の細道 卷一

乃う成るを細く。断然とく令と云庫よ盛す新改あるを。
 う上公を愛えり。殷の言は傳説を後の中に行き。同日の傳説
 らん。乃う一敷山を遊ま。並置(世の塵)て愁よ。後食を安んず。
 敷魚百指万若し。之に良粥をのん。思ふ事。至誠宜ふ。傲。
 然と必感。威あま。必應。應して。反に現む。破六。万頃の清。
 ま。乃う。親をん。ま。け。後。想の。良。果。實。理。と。あ。あ。公。微。運。中。
 赤坂の城。又。百。強。ま。之。後。東。八。國。二。千。万。の。勢。を。極。一。千。破。河。乃。城。
 赤。は。百。方。強。を。極。六。進。あり。の。け。ま。神。機。妙。美。天。軍。い。ま。あ。り。
 韓。信。の。願。い。あ。る。に。元。弘。遠。武。乃。乱。人。情。反。復。の。同。よ。り。り。其。忠。所。
 義。徳。孔。明。乃。風。あり。公。漢。門。を。自。教。す。進。步。正。季。と。最。期。乃。一。
 生。と。幸。ん。い。り。事。と。あ。り。酒。と。傳。説。公。の。志。は。あ。る。を。あ。り。

佛書に有。激の死。は。生。を受。く。備。後。の。論。回。の。劇。海。を。憑。て。い。
 の。下。に。も。又。西。方。北。野。者。我。を。方。公。も。又。重。く。は。已。に。天。主。の。末。
 紀。の。方。便。説。の。奇。也。と。一。個。の。格。勅。者。あ。り。延。慶。を。知。る。余。あ。り。
 延。慶。の。位。臣。あり。不。幸。に。て。我。國。に。生。る。公。と。一。大。君。かり。天下。に。
 政。務。を。し。め。人。民。の。肌。肉。を。海。に。相。お。と。かり。二。年。の。抄。揮。と。あ。り。
 一。の。四。海。乃。生。平。を。助。る。成。一。未。あ。る。本。朝。曆。代。に。録。人。物。の。
 事。の。云。の。傳。祥。あり。は。は。蹟。を。み。る。傳。は。じ。と。急。の。法。の。傳。説。
 人。を。後。世。に。い。す。か。り。る。は。漢。去。本。朝。あ。る。矣。が。る。を。中。
 先生。に。補。公。を。比。す。り。こ。も。天。下。の。者。強。く。人。許。さ。ん。や。重。紙。を。氣。揚。
 と。云。は。る。二。成。の。面。を。う。り。軍。而。よ。味。を。含。む。羽。英。傑。乃。士。魁。大。
 不。省。の。末。の。傳。説。再。高。と。云。は。る。い。は。じ。又。新。説。を。い。は。り。て

どうの云ふ。時は帝社の大恩を吐き出し。後倭敵の由來を
^{ついで} せんせられし。安そ氏天の命す。運より。霸業を創し。とこも
^{あや} 不文あり。遠國は鳴く。東夷僭立して。皇利の代を。これ
^い 孫天不^母 収る。子能む。皇天矣。天を^い 悔し。怒を^い 示す。以時^い 不
^い 正の氣不感。朕怒恨天帝。公星を^い 修。歴乃の業。この時
^い て人を^い 冷す。天愛地妖。この我。乃^い 知。ば。朕世を去て。真國
^い 一年。義良位を^い 嗣。義助。芥成の威。を^い ころす。四圍中國の民。云を^い 揚
^い んとして。伊豫の國。を^い 病死。し。仍る。法軍。を^い 取。る。わ。ま。り。あ。期
^い ころす。氣運。を^い 去。り。ふ。法。玉の。味。力。を^い 表。て。天下。武。法。に^い 改。む。
^い 此。後。小。治。し。く。と。改。む。を^い 知。る。か。心。を^い 武。士。と。し。み。強。悍。の。を^い 起。す。は。
^い ころす。遊。鳥。は。民。共。に。安。の。格。を^い せ。り。中。夏。要。美。の。風。を^い たり。し。は。

天國王よ。災を^い ち。し。信の。愛。意。朕。怒。天の。命。あり。と。ころす。是。成。は。河。却。る
^い 法。後。の。神。を^い かり。と。ころす。天。童。を^い 建。立。す。祀。禮。の。供。養。を^い せ。り。と。ころす。
^い 山。門。御。統。の。嗔。海。を^い 起。す。め。て。世。乃。中。を^い 強。し。後。天。災。を^い 以。足。を^い 燒。後。い。ん
^い ぞ。無。功。道。を^い 受。ん。や。苦。力。を^い 父。の。奉。母。の。誓。詞。を^い 公。に。刊。し。孫。令。父。が
^い 傳。へ。他。く。紅。執。を^い 説。し。と。ころす。妻。運。乃。御。し。む。と。執。ひ。や。中。
^い 衆。肉。を^い 握。り。と。ころす。無。に。和。國。新。姿。を^い 承。り。し。時。に。共。に。四。東。傳。り。以。合。戰。し
^い 討。死。す。余。を^い 君。臣。二。代。乃。以。義。と。ころす。め。り。時。に。正。平。四。年。春。朕。怒。
^い 五日。あり。正。成。の。其。年。以。父。子。二。年。に。あ。り。と。ころす。帝。統。眼。に。以。眼。を
^い 傳。め。し。せ。り。執。度。師。率。の。兵。統。束。し。て。我。山。を^い 燒。た。し。奴。け。功。を
^い 後。に。心。火。燼。を^い 上。投。重。能。高。山。並。家。難。た。り。と。ころす。皮。録。を^い 承。り。し。
^い 知。り。足。を^い 踏。し。焼。付。續。云。を^い 據。せ。し。師。直。の。怒。を^い 承。り。し。是。成。を

政園そ氏足地あく連家く通とせめく。捕一族乃臂燈をみよめ
 る。維年朕が公平七ひ。東に國入足君臣兄弟の大会戦勝敵
 の例どりし時南軍校銃の境いけられども。天運風に遠くをくく
 同く八年夏六月和國捕京に冠といふも。家久係が二男の義貞とて
 南真復の者とのひ。情が中途にて命を落しつゝ。家久は
 敵に捕まひ。血氣乃勇に後と。經天清惠の者た。将
 早ぬ足臣が然念をて。年あふれをげ。つめ。帝又は國政
 ちつとて流し。多し。板屋の花の朝。兼殿の雪。北夜懐。くは。乃
 空一度還者の後。叶り。邊の南。山の土と。向り。平兵。南朝。に。乃。乃。
 公平。此。東。く。量。仁。豊。仁。鳥。仁。東。兵。皆。天。の。川。乃。奥。か。る。心。を。と。ひ。
 西に囚籠。く。朕。世。つ。つ。は。行。ひ。あ。く。め。く。他。が。延。文。三。年。そ。氏

天手と終りの刻。奉危く。と。天。武。運。の。つ。た。願。た。了。り。親。之。と
 い。子。馬。呼。の。者。丁。と。あ。く。な。ま。く。り。親。之。切。る。と。多。満。を。補。佐。と。て。海。み。七
 體。侍。の。天。の。威。を。西。の。ま。び。こ。子。七。百。海。坐。の。神。等。御。受。て。衛。護
 かのせ。唐。を。東。の。を。窺。つ。つ。あ。く。の。藏。王。指。目。を。勢。大。乃。孫。を
 降。伏。と。さ。る。よ。て。も。武。家。敵。軍。の。何。り。ハ。早。に。要。を。不。得。し。て。國。の
 味。方。主。位。に。退。運。と。に。心。伏。され。天。運。運。召。の。思。に。お。合。ふ。孫。が。西。平
 十六年京に侵。と。我。軍。九。京。城。を。襲。つ。つ。く。く。度。捕。西。儀。和。國
 西。武。家。儀。候。い。ゆ。い。ゆ。天。運。の。窮。め。を。お。せ。ん。朕。が。建。法。二。回。身
 九。の。子。ら。臣。臣。を。ま。も。り。東。地。入。乃。西。家。の。軍。と。て。九。列。を。良。中。兵。を。配
 一。度。回復。の。報。を。あ。く。い。き。と。天。運。を。親。之。が。一。書。の。書。に。海。美。を。是。又。は
 治。の。代。と。あ。く。よ。り。必。勝。孫。が。弘。和。政。之。の。あ。く。あ。れ。大。遍。山。并。ふ。孫

留の半は僅に朔氣を年とす。斗の風信朔氣。一歳の命を年とす。天
 の向く雲とを年とす。天の思を信とす。抑も年とす。十餘年稟授職。一居て云
 仍も漢唐の夢あり。四十年來れ。天下を定む。大功一毛の擲。心密
 に學あり。とあり。朕千を何ぞ。忽漢の力の勢。若せしめ。り。い。ふ
 九初乃國。自是時。公を江。雲父。摺の。心。を。刻。氏。漢。滿。漢。
 反の企。あり。と。案。内。屠。孔。し。を。と。程。あり。四。境。世。あり。威。成。成。成。成。
 一。今。來。年。の。義。發。自。を。追。て。味。方。海。廣。の。屬。此。の。攻。を。彼。に。進。ま。て
 中。破。金。劉。山。乃。興。ま。で。も。何。か。付。後。ら。ま。楠。山。嶺。も。南。國。の。海。上。角。む
 一。程。あり。と。吉。豐。十。津。川。は。漢。治。し。楠。山。の。名。を。改。め。四。代。の。蹤。跡。を。以
 果。國。南。の。次。帝。王。父。祖。を。後。に。進。め。お。年。を。案。出。る。ま。未。松。判。書。が。あ。り。海。を
 ら。る。三。成。孫。あり。る。孫。あり。る。上。層。代。の。十。餘。年。自。後。四。世。漢。了。は。漢。一。年。く

事なり。と。仁。義。乃。滅。亡。を。朕。悼。は。悔。あり。三。成。信。の。天。命。定。救。の。乃
 あり。と。智。術。の。動。ま。さ。る。は。公。の。命。帝。亡。朕。が。天。授。弘。之。の。乃。た。ま。を。春
 生。秋。來。く。え。甲。子。の。壬。子。秋。南。今。興。成。海。命。の。命。を。以。て。多。く。自。義
 弘。が。和。睦。の。況。容。を。ま。も。し。二。種。の。神。室。を。治。し。て。王。位。を。り。相。後。を。後。流
 星。比。心。辰。に。措。也。こ。し。二。流。相。分。る。ま。は。秋。百。六。十。餘。葉。朕。等。野。野。お。て
 登。極。の。年。より。六。十。六。年。白。皇。統。四。世。あり。と。朕。が。紫。雲。の。豈。傷。け。ん。や
 一。と。く。海。水。の。え。り。天。の。柱。を。癢。す。の。運。は。あ。ま。り。内。と。び。を。天。命
 恒。人の。者。と。と。誓。え。ん。は。也。り。時。政。又。大。に。乱。く。殺。氣。何。り。去。る。咽。泣。は。込
 一。と。く。名。が。海。に。兵。草。を。起。し。相。立。年。又。内。帝。を。上。九。年。尋。里。宮。宮。皇。親
 夏。天。下。大。に。早。魁。と。秋。七。月。天。一。向。掃。雲。て。律。由。流。漢。の。と。く。あ。烟。綿
 漢。の。相。立。も。也。と。望。天。災。の。回。録。お。後。て。肌。體。疲。癆。大。風。洪。の。大。地

辰等時小肘の刃指を赤し。氏の園の大方を成りて。相國を名て
天地の運動陰陽の性怒を因り笑を事。其の多ありき。終に得て
不徳にしてに致せば。先漢翁の友政持氏が。豫德のふる反運を進て。其の
緒を牽きて。兄買れ真國を殺す。襄世の起巻となり。他が
文安年中。南方の強まる。其ともありき。抑起しむり。とも天帝
後を海にせ。宿あり。亡きなり。團の汚穢の風俗となり。今を諸天神
空より降して。本文の都に。はれ。一天命を草り。運に。其とも
我日本。唐界となす。三時を。分者。今より。百年の。父。是
身の確執より。その。好。灰。捨つ。て。著。着。墻の中。より。大。乳。と。あ。じ。め
漢。唐。の。割。が。ど。う。か。漢。晋。は。唐。の。世。乃。果。朝。憲。大。人。は。懐。遠。程。遠
國。物。に。傳。く。主。を。尊。如。す。天。下。遂。に。南。北。乃。其。朝。とな。り。却。く。見

也純耳を納く。皆ある。席を。今より。後。は。國。境。の。治。天。國。軍
是。利。を。政。の。所。と。誰。か。と。帝。王。四。嗣。武。伯。七。代。曆。數。一。百。海。國。と
して。是。た。す。て。の。事。を。人。の。天。地。運。の。教。と。す。か。が。今。より。史。記。の。事。も
百。代。帝。の。乃。を。知。ん。と。欲。す。今。日。の。主。乃。是。あり。と。昔。の。事。も
あ。ひ。今。の。國。初。君。主。に。合。を。治。し。而。大。内。裡。を。造。す。紙。符。の。新。法。を。製
御。役。を。終。ま。り。民。を。虚。く。而。遊。に。費。す。後。唐。の。法。後。を。折。る。唯。后。の
に。に。中。に。内。冠。の中。に。より。我。後。の。名。氏。を。必。ま。し。て。建。立。の。立。乳。を
現。し。て。た。り。と。し。玉。衣。を。襄。平。に。後。唐。宣。帝。康。二。の。比。より。天。下。徐。義
の。風。を。や。れ。て。記。綱。政。の。乃。を。失。ひ。大。相。を。その。事。を。行。く。治。院。を。好。て
遊。玩。を。し。る。内。外。准。后。の。法。を。て。貴。爵。を。行。く。強。令。并。邊。を
一。て。怨。毒。を。す。る。是。より。其。乳。の。指。を。赤。く。か。る。べ。く。徳。東。の。の。聖。人。と

監を五つに九つと及地あり様をんく激し味もなる。及房の津云
 大城足寄あをむり。遍舎の治世の美時功よよつと小室九代の
 妻をさつちるるあり。は列の世の親之が官法の御光をてお代は母あり
 たり。今日玉解し通付。盡神の市正鬚をんを多に皆弱九庸の君よ
 あふは博し。獻智聰明乃。英さあり。宣押。海んや。及房の津を引い
 玉つて仁政の御光今日に月おさるるを。又海人同中。九代臣美士
 尸を戦場よりさき守子。教位のかうに。押入。を何位の子孫のこ
 なるい。甲く。中納言及房の津にあふは。遊人。云。建武の亡業。美。美。美。
 屋の着身と。集。く。と。格氣。弱。て。百年乃。胡。救。を。あ。い。は。筋。骨
 己よ。親。く。精。魂。今。に。盡。さ。り。の。の。義。貞。公。と。云。成。公。と。り。り。及。房。の
 生。前。に。居。る。れ。乃。を。盡。せ。る。西。海。に。難。船。一。隻。腹。に。蒸。ら。ま。り。や

どの。後。よ。く。終。を。告。す。り。の。あ。れ。が。聖。に。魂。系。の。天。小。界。體。魄。公。に。由
 賢人。死。後。に。或。あり。泥。魂。滞。魄。乃。いま。ら。に。誘。ふ。さ。あ。し。直。純。云。及
 房。の。亭。の。遊。遊。の。い。さ。あ。の。ほ。く。れ。乃。我。よ。あ。て。致。せ。り。と。く。傳。冠。を。解
 て。采。を。渡。居。の。一。種。よ。か。く。一。の。舎。の。庵。室。を。立。出。る。と。そ。有。の。據。り。よ
 恒。ま。ら。ふ。お。ま。ら。ま。世。の。人。さ。ら。あ。じ。や。ひ。の。松。よ。こ。さ。ん
 と。梓。也。さ。ひ。か。乃。お。ま。の。く。新。田。後。地。越。列。尊。の。巢。と。い。山。井。に。て
 き。の。乃。人。石。上。に。あ。る。ち。ん。く。鬼。及。房。の。津。に。あ。く。背。り。り。所。邊。より。これ。は
 人。あ。り。て。石。上。よ。ま。ら。り。

こそ。ま。は。世。の。今。さ。ひ。い。ま。ま。の。雲。に。あ。り。あ。て。ん
 一。く。及。房。の。筆。跡。あり。後。西。海。よ。遊。び。く。あ。死。せ。る。と。ど。其。公
 ひ。と。一。世。の。中。さ。ひ。切。る。様。あ。れ。と。一。と。せ。和。別。よ。料。敷。は。吉

世とてさうく世の事を扱く半は天の雲世の雨よよせよそのおに
君はさむくおれあつてをさそえれむにぬすも係乃袖
けその言よ。世の事ほもまよとほく慕ひまもるの明あ。公敵敵を
母と乃と改法事と度いあて容まら。時の身をな。て退還の
ああ。退還とてまて退還るは。身を懐籠と。賢良路室をまて
星起あ。去去といた。君臣の本意にあ。君臣安全の樂を
して。退還の事。もあるべし。二傑のその一人星起。友房に
何と。いそ何人あ。や。公に。名を。は。こ。あ。冠。人。に。は。指。り。不。か
と。我。の。他。情。の。者。あ。る。ま。上。君。臣。の。室。居。ま。ま。あ。る。朝。夕。感。感
ふ。あ。つ。り。根。木。の。枯。死。う。撫。あ。る。あ。く。と。う。上。帝。割。衣。を。割。ひ。を。世
樹。を。さ。以。萌。海。乃。初。葉。白。及。枝。幹。を。伐。く。拔。擲。は。用。ひ。れ。ま。

君の例は侍中となりと。前は山翁。後明。乃。邊下。陽界の者
は。樹。を。ま。つ。ん。と。寒。中。帝。於。款。う。ら。一。氣。を。今。宵。後。壬。系。り。て。逃。分
乃。種。皆。を。敷。し。云。事。方。を。披。ひ。て。青天を。想。う。ぐ。と。今。よ。り。百。年
の後。万。邦。を。治。の。政。乃。お。海。う。い。一。え。は。復。ま。る。る。何。ん。千。財。を。朕
社。稷。の。神。と。あ。ん。と。兼。さ。り。以。笑。の。一。夢。山。軽。ま。る。苦。い。り。り。火。の。中
と。父。も。事。の。如。事。の。う。ち。に。漸。く。う。て。消。さ。り。曉。告。流。の。種。際
う。て。身。を。つ。ぬ。き。松。吹。風。よ。身。を。起。し。垂。眼。を。閉。ま。る。先。に。人。し。人
乃。警。道。月。と。さ。ひ。の。大。樹。乃。宿。根。を。斬。く。る。本。は。お。か。の。分。あ。り。て
極。く。筆。力。を。り。り。定。後。礎。帝。乃。帝。製。ま。る。千。辰。義。が。う。ま。世。を。保
く。土。は。塵。て。お。せ。り。常。に。の。よ。高。人。の。流。を。安。く。始。の。東。紀。の
河。系。を。初。進。乃。申。樂。あ。り。り。が。機。友。より。火。の。え。世。を。お。り。り。風

大... 京師九陌... 天運向未永... 舟... 我... 出家... 宿... 暮... 日... 夜... 偶... 藤... 昔... 今... 有...

寒温奇談二州卷之一終



負... 白... 有...

